

議会だより

# しょうわ

2010.4.22

No. **145**

山梨県昭和町議会ホームページ  
<http://www.town.showa.yamanashi.jp/>



— 米アイオワ州訪問団と常永小ランチルーム —

山梨県  
米アイオワ州と  
姉妹締結50周年!

県特産品「フジザクラポーク」はアイオワ州より台風被害の見舞いに贈られた種豚を育種改良したものです。常永小で訪問団と一緒にフジザクラポークを食べました。

**特集** **学生議員** 世代を超えた意見交換 .....2

**予算総額99億円** **自主財源比率73.04%** .....6

**委員会質疑** .....8

**8議員が一般質問** .....12

**井戸端会議** (住民・議員の対話集会) .....18

**追跡** **あの質問はどうなった** .....22

**昭和町に住んでみて Vol.9** .....24

# 世代を超えた

意見  
交換

## 学生の提言（一部）

- ・ほたる保護のために条例を制定すべきではないか
- ・ビオトープから地域のネットワークづくりを
- ・緑化まちづくり推進のために、緑化・景観推進条例などを制定し、住民に促していくべきでは
- ・常永駅周辺の空き地の有効活用と駐輪場の整備の必要性
- ・公共交通機関の充実で、昭和町をもっと利用する人が増えるのでは
- ・道路拡張や街灯設置個所の増設で、住民の安全を守っていく
- ・一般住民に防犯意識をもってもらうため、防犯ボランティアの育成や育成を行う人材の確保が必要だ
- ・議会PRの一環としてゆるキャラ作成
- ・子ども議会の開催で、議会のしくみなどを学び興味・関心をもってもらう
- ・病児保育専門の施設の充実
- ・育児休暇取得の促進
- ・役場の短期間の人事異動をやめ、行政の専門分野のプロの育成を



平成21年12月定例会の一般質問で、保坂明子議員から「専門性を生かせる職員の育成を」という質問が出されました。これは、ワークショップで「役場の短期間の人事異動をやめ、もっと行政の専門分野のプロの育成に力を注いでも良いと思う」との提言に賛同されています。町長の答弁では「多様化の時代に向き合えるよう、職員の専門分野研修会への積極的参加や、各分野の経験を積み重ねることで、見識の広がり・的確な判断ができる人材育成を目指したい」との回答を得ています。

平成22年3月定例会の一般質問でも、田中博愛議員・塚原将司議員からワークショップでの大学生の意見を取り入れた質問が出されました。



# 学生と議員

平成21年10月26・28日に山梨学院大学法学部政治行政学科の学生と議員による初めてのワークショップを開催しました。2日間で教授・学生約120人と町議会議員14人が参加しました。

## 初のワークショップ

### 経緯

町づくりに関心を持っていただいた学生約150人に対して昭和町の様子を紹介しました。町の財政状況と福祉政策について説明いたしました。学生たちは何カ月もかけて昭和町を調査研究し、若い感性で昭和町政への提言を検討しました。



### 学生の 現地調査

7月ころからグループごとに昭和町役場や町内の現場を訪れ、町の状況の調査や現地での聞き取り、そして各担当課長に質問するなど研究をしてきました。2カ月ほどかけて、児童館・保育園などでアンケート調査を行うグループや、常永区画整理地内を視察するグループなど、それぞれの政策提言をまとめました。



### ワークショップとは？

講師の話を一方向的に聞いたり、教材を読むだけでなく、参加者が専門家の助言を得ながら積極的にかかわり、問題解決のために行う研究集会。

## 昭和町議会に期待！



山梨学院大学法学部教授  
第29次地方制度調査会委員  
江藤 俊昭

昭和町議会は、井戸端会議や区長懇談会など、住民に開かれた議会を目指し、住民の声を町政運営に生かそうと考えている。その一環として、一昨年度の学生議会に続き、昨年度はワークショップが開催された。

議員の一言一言を学生が真剣に聞き、今後の研究に活かしている。私自身も、自治の原点を再確認している。「改革が重要なのではない、住民の福祉につながらなければ意味はない」。「多くの住民の声を聞き、町民全体の代表になれる」。ハツとした言葉である。

住民目線で住民福祉の向上を第一に考える昭和町議会に期待している。

# 山梨学院大との提携3年目へ！

## 議会改革のあゆみと展望

全国初の試みとして、平成20年5月にスタートした山梨学院大学ローカル・ガバナンス研究センターと昭和町議会の提携も2年目を終え、平成22年度も引き続き進めていくことになりました。

教授を囲んで、全議員が参加して昭和町の課題や疑問をぶつけ合う相互的な講義を行いました。

### 平成21年

- 6月「議会改革と住民自治」（江藤教授）  
議員報酬と定数を資料や事例を提示して学びました。
- 7月「行政と住民参加」（三好教授）  
住民参加から住民参画、政策立案、住民協働の行政を学びました。
- 9月「自立自治体の形成」（西寺教授）[2日間]  
西寺教授が市議会議員を5期、市長3期の経験を基に講義をしました。
- 10月「地域福祉政策」（竹端准教授）  
住民の意見を吸い上げた福祉政策を学びました。
- 11月「環境基本条例の制定を求めて」（丸山教授）  
山梨県環境基本条例と他市の現状と環境基本法を学びました。
- 12月「コミュニティ・ガバナンスの現状と課題」（日高教授）  
「行政区」の活かし方を中心に講義を受け、討論を交わしました。

### 平成22年

- 1月「在日外国人子弟の就学問題」（中井教授）  
国際的教育・永住外国人地方参政権問題の討論を行いました。
- 2月「山梨における自治体行政改革の現状と課題」（外川教授）  
県内の実践的事例と市場化テストを詳しく解説していただきました。



## 変わってきた議員の意識

—— 町民の信頼に応えられる議会をめざして ——

**今後の改革への道筋**  
初の試みである大学と提携した議会改革への取り組みは、今までの基礎づくりを進展させ、ホップ・ステップ・ジャンプと、飛躍の年にしていきたいと思っています。具体的な目標としては、議会基本条例の制定をめざしていきます。

**2年目を振り返っての感想**  
学ぶ、行動する、改革する議会をめざし、山梨学院大学ローカルガバナンス研究センターと提携した議会改革の事業も2年目に入り、各分野の専門の教授を囲んで9回におよぶ研修を行いました。当初は単に聴くだけの研修でしたが、回を重ねることに議員と教授という垣根が消え、専門知識の習得、昭和町の具体的な問題にかかわる意見交換のなかで、議員の意識も大分変わってきたと感じています。  
若い学生諸君の新鮮な感覚、熱意と行動力ある問題提起にも大いに刺激を受けたり、反省させられた面も多かったと思います。大学側のご指導、ご協力には心から感謝しています。

## 補正予算

平成21年度一般特別会計予算補正は、歳入歳出それぞれ1億1,747万2千円を追加し、予算総額を112億7,770万3千円となった。

### 平成21年度補正予算

一般会計	1億6,551万7
・ 障害者介護給付費	640万0
・ 一般廃棄物収集運搬処理	190万0
国民健康保険会計	4,691万5
老人保健会計	931万9
後期高齢者医療会計	416万8
介護保険会計	1,391万9
下水道会計	777万8
湧水対策会計	70万6

## 全員賛成で可決

# 3月 定例会で 決まったこと



井口 悟 氏

教育委員の任命  
後藤教育長の退任に伴い、平成22年4月1日付けで任命

## 人事

## 条例の改正

町税の一部改正  
個人の町民税納付について前納報償金を廃止する  
町職員給与の一部改正  
地域手当、勤務時間外代休時間の創設および平成22年以降の期末勤勉手当の支給割合を変更する  
課設置の一部改正  
環境経済課が所管していた「公園管理に関する事務」を都市整備課に移す  
国民健康保険の一部改正  
世帯主の後期高齢者医療制度への加入により、新たに国保に加入した者の国保税の減免期間を延長する  
都市計画下水道の受益者負担金の一部改正  
区域外受益者から加入分担当金を徴収するため  
議員 議会広報発行に関する提出 条例の一部改正  
校正事務を編集委員も行う  
全員賛成で可決

## 協議議案

昭和町と南アルプス市の境界の決定  
増穂町と皷沢町が合併して「富士川町」となることに伴う「山梨県市町村自治センター」の組織団体の数の変更  
市町村自治センターの解散および財産処分

町道路線の認定および廃止  
全員賛成で可決

## 22年度予算

一般会計  
賛成14、反対1で可決  
特別会計  
全員賛成で可決

## 請願

「協同労働の協同組合法」の速やかな制定を求める意見書の採択を求める請願  
全員賛成で採択

安全に責任を負う自治体議会として当然。

## 意見書の提出

日米地位協定に関わる、裁判権放棄の日米密約」の調査・公表・破棄を求める意見書の採択を求める請願  
賛成2・反対13で不採択

## 討論

【賛成討論】  
深澤平助議員 密約は許されることではなく、住民の

「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のNPT再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書（案）  
「協同労働の協同組合法」の速やかな制定を求める意見書（案）  
全員賛成で可決

# を可決

前年度比 **マイナス 4.9%減** の緊縮予算



## 任期最終年・町政の基本方針

町民と協働し  
住みよいコンパクトシティづくりへ

### 角野町長の施政方針 (要旨)



20周年を迎える図書館

#### ★行政区制度の改革

行政区補助金の二本化、「地域力活性化交付金」と「地区担当職員制度」

#### ★郷土学習への活用

町の誇り・杉浦父子の顕彰と医院建物の保存

#### ★安全・安心のまちづくり

公用車と職員による青色パトカー、消防出張所増築と隊員の専従化

#### ★みんなでつくる協働のまちづくり

町の情報発信と町民参画促進、各種団体への支援

#### ★子育て環境整備

母子保健の充実、児童館の整備

#### ★緑豊かなまちづくり

ポケットパーク、環境美化、緑地保全、農産物直売所建設

#### ★昭和教育の推進

教育補助員・支援補助員・町単職員の維持、増員、図書館開館20周年記念事業

#### ★高齢者・障害者にやさしいまちづくり

独り暮らし世帯への火災警報機無償設置、福祉車両、人間ドック定員増

#### ★基盤整備

西条・昭和インター線、町道30号線、下水道、常永区画整理事業

・町営住宅建て替え事業(最終)	1億円
・常永土地区画整理事業(継続)	1億1,504万円
・防災無線デジタル化工事費	5,865万円
・道路新設改良費	1億1,305万円
・西条児童館増築事業	4,200万円
・杉浦邸保全関係	1,642万円
・地域力活性化交付金	2,235万円
・要援護者住宅火災警報機設置補助	200万円
・自主防災会資機材等整備補助金	170万円
・農業振興地域農地保全助成金	749万円
・木造住宅耐震化補助金	682万円

#### 一般会計の財政

自主財源比率は?	73.04%
平成22年度末の町債残高(借金)は?	72億1,585万円
町民1人あたり	42万3千円
平成22年度末基金残高(預金)は?	19億4,536万円
町民1人あたり	11万4千円
人口 平成22年3月1日現在	1万7,049人

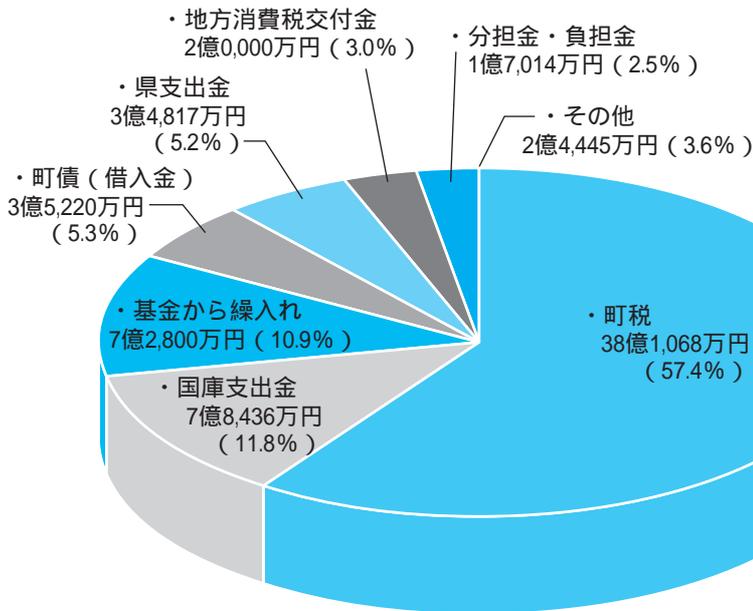
一般会計のおもな事業

# 平成22年度一般会計当初予算

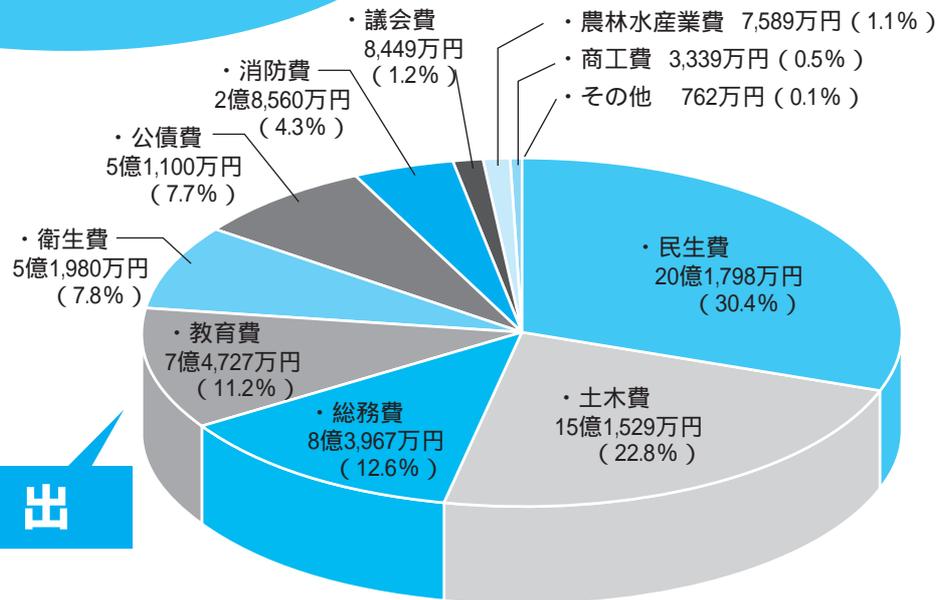
# 66億3,800万円

## 一般会計予算のなかみ

### 歳入



### 歳出



## 平成22年度一般会計・特別会計予算

会計名	予算額	前年度比
一般会計	66億3,800万円	4.9%
特別会計		
国民健康保険	14億5,900万円	1.1%
老人保健	77万円	95.5%
後期高齢者医療	1億0,090万円	2.2%
介護保険	5億9,710万円	4.2%
介護サービス	1,228万円	7.8%
下水道事業	11億8,100万円	4.8%
湧水対策事業	551万円	±0%
合計	99億9,456万円	3.9%

平成22年3月議会定例会は、3月9日から23日まで15日間の会期で開かれました。この議会では、前年度より3.9%減の総額99億円余となった22年度予算をはじめとして、前納報奨金を廃止する条例改正や21年度の補正予算など合計27議案を審議し、新年度がスタートしました。

# 3月定例会 委員会質疑

議案をさらに細かく各委員会で徹底審査を行いました。

## 総務常任委員会

### 《前納報奨金廃止》

深澤議員 今までのような形で行っていたのか。税務課長 普通徴収・口座振



消防団訓練

替納税は、口座申請時の登録に基づき行う。納付書の方は、窓口で払うときに差し引きしていた。

浅川議長 固定資産税はどうなるのか。

税務課長 今回町民税だけ廃止だが、固定資産は町外の方の周知が困難。固定資産は今後の課題。

### 《たばこ税の増額補正》

山田議員 たばこ税の詳細は税務課長 タスポ導入や不景気で昨年より低い2億の歳入見込みだが、例月の様子で増額たばこ税は1本3円29.8。

### 《消防団》

野中議員 消防費の賞じゅつ金と、消防団救助用具購入は何か。

企画財政課長 賞じゅつ金は職務を遂行し災害を受けた団員または遺族に支払われる。救助用具は毎年団と相談し、担架や救助用のチェーンなど購入。

### 《区の自主防災点検》

河住議員 各区の点検は行き届いているのか。企画財政課長 自主防災会の強化手引き書を作成し、備蓄の対応や資料を提示し、万全を期してもらいたい。

## 産業土木常任委員会

### 《西条・昭和インター線道路工事》

浅川議長 地権者の同意を得られないもの見通しは。建設課長 測量や調査はさせてくれることになった。今後具体的な用地交渉に入る。

### 《水質検査》

保坂議員 水質検査を隔年にした根拠は。環境経済課長 45力所水質検査しているが、問題箇所は継続し、それ以外は隔年で行う。

### 《ゴミの監視指導員》

樋口議員 監視指導員の委託は今何力所か。環境経済課長 常時配備は3力所、3人配置であと1人は



ゴミ収集

車で巡回。課の職員も回っている。

### 《下水道への接続》

志村議員 下水道の本管に接続しない人がいるが、罰則強化できないか。下水道課長 罰則に頼らず定期的にお願いし根気よく行う。

### 《ゴミ分別》

深澤議員 中央市で生ゴミ処理を拡大するが、昭和町でも検討してほしい。

環境経済課長 単町では実現が難しく、中巨摩広域で話した経過がある。中央市の担当課と検討したい。

## 教育厚生常任委員会

### 《認可外保育所施設の職員の健康診断》

河田議員 認可外保育所施設職員の健康診断の補助とは。福祉課長 企業の検診や住民検診に漏れた職員への補助。

河田議員 正規職員の人数は把握しているか。福祉課長 県の現地調査で正規職員数は確認している。

### 《がん検診専用電話》

樋口議員 乳がん検診専用電話は夜間も利用できるのか。いきいき健康課長 夜間は考えていない。



乳がん検診車

### 《国保の保険給付費》

河住議員 保険給付費の増額が大きい原因は。町民窓口課長 毎年給付費は増えているが、今年度の実績等を見た中で予算。

### 《介護認定》

樋口議員 昨年の認定が10人増えたが、現在の認定者数は。福祉課長 現在324人。要支援1が15人、要支援2が32人、要介護277人。前年比10人増

### 《家族介護支援事業》

河住議員 家族介護支援事業の予算計上は。いきいき健康課長 昨年度昭寿荘で行っていたが、今年度は地域包括で行う。そちらで組んである。

### 《保険給付費の負担割合》

深澤議員 保険給付費に対する国・県・町の負担割合を。いきいき健康課長 国庫は20%、県は12・5%、町は12・5%

### 《介護サービス》

河住議員 介護予防サービスはどのくらい増えているか。いきいき健康課長 384件で、前年より約50人多く見込んでいる。

### 《教育振興費》

萩原議員 教育振興費が年々減少している。教育現場で支障が出ないか。学校教育課長 経費は前年度5%減の方針。各学校で努力した結果の数字。

### 《給食費の滞納》

河住議員 給食費の滞納はどのような対応か。学校教育課長 21年度途中で未収額135万円余。お盆・年末・年度末に戸別訪問し、督促状は学校長と給食センター長連名で郵送。河住議員 長期のものは。

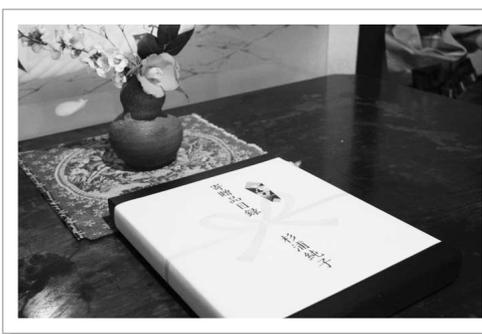
学校教育課長 135万円は21年度のもの。10年近く残っているものもあるが、居所不明は整理している。

### 《親子スキ》

樋口議員 親子スキー教室の参加者は。生涯学習課長 バス2台分に限定し、約90人。

### 《杉浦邸》

田中議員 杉浦邸保存の関連委託300万円と管理委託84



寄贈リスト

万円などあるが、備品の詳細は生涯学習課長 寄贈リストができたばかり。必要な経費を盛つた。

三井議員 杉浦邸の公開は。

生涯学習課長 10月に病院部分を開。杉浦医院は地方病を学べる所にした。

### 《中学校》

遠藤議員 中学校は空きクラスがあるのか。学校教育課長 普通教室は満杯区画整理で人が増えれば、考える。

遠藤議員 常永区画整理で人が増えたとき、当局の対応は教育長 法的には今の状況なら多少余裕がある。教室が足りなくなったら、増築やほか中学校を造るしかない。

## 水源対策特別委員会

### 《1級水準点の測量調査の観測地点》

深沢議員 1級水準点測量調査の観測地点は水位で地盤沈下を調べるのか。

環境経済課長 基準地点は甲府の酒折。水位は連動しておらず、町内2カ所で測っている。田中議員 基点の地盤沈下データは何年くらいのペースか。

環境経済課長 県のデータは毎年。本になっており配布する。田中議員 町内雨量はどこか環境経済係長 本庁舎屋上に設置してある。

浅川議員 地盤沈下が25年で10cm下がったところの対策は環境経済課長 短期間で20・30ミ下がる場合は監視強化対象この状態は許容範囲で、問題ない。

## 地方分権対策特別委員会

### 《行財政改革進捗状況・地域活性化交付金》

河住議員 地域活性化交付金は出したら返金はないのか。総務課長 区費の中で補助金割合は2割なので返金の必要はない。

志村議員 交付金は6事業に限るのか。総務課長 交付金は一括。6事業は例としてあげている。

河住議員 各地区への係長派遣の時期は。総務課長 区長会で意見を聞き、3〜6カ月後めに進める。

河田議員 職員の精神面も気配り心配りを。実践のある研修もやってほしい。総務課長 あいさつは人づくりの基本。研修を練り検討する。

《議会基本条例》河住議員 議会と町民の関係とあるが、連携のほうがい

のでは。

福島議員 語句は専門家に見ていただけたらどうか。

浅川議員 順番に検討し、できあがったら示したい。小委員会であたき台を作り意見を聞きながらやっていきたい。全員 それで進めてほしい。

### 《井戸端会議》

塚原議員 今年度も継続を望む。報告書の様式・書式は基準をつくったほうがいい。

浅川議員 ひな形をつくり統一様式でいきたい。

保坂議員 この一年も同じようにやるのか、委員会に任せ、違うやり方で行うのか。

萩原議員 地区特有の問題を事前に知ると、突っ込んだ話し合いができる。

浅川議員 基本的に昨年度のやり方で進めたい。委員長は大変だが、出た意見に対し、住民に伝えてほしい。意見の多い少ないは地区によるが、事前質問もひとつの方法だ。

塚原議員 事前に質問・回答準備だと、井戸端会議として疑問があり、段取りが良すぎで生の意見が出にくいのでは。三井議員 今年2回目で地区も慣れ、質問も多く出ると



西条二区運動会

# ここが聞きたい

本会議の議事録はホームページで検索できます。  
議会事務局でも閲覧できます。

「一問一答方式」により8人の議員が幅広く質問を展開しました。  
(再質問・関連質問を含み要約)



かわすみ やすしげ  
河住 保茂 議員

## Q 行政経費の削減は

**河住**

景気低迷で国・地方の財政は厳しいが、行政経費の削減に職員の意識改革を望む。

経費節減と省エネに、昼休みの一斉消灯を。補助金を公益性・行政の責任分野・経費のあり方・行政経費等で再検討し、見直す考えは。

## A 省エネに努め

### 補助金のあり方も検討

**町長**

庁舎1階は来庁者が多く点灯しているが、庁舎2階の事務室は消灯している。コスト意識を高め、省エネに努めたい。

恒常的な補助金交付は問題があるが、事業停滞や地域活性化の妨げにならないよう、地域力活性化交付金の活用状況を見ながら、あり方を検討していきたい。

## Q 消防団員の報酬は

**河住**

消防団員報酬を過去の議会で質問したが、消防委員会、報酬委員会等の検討経過を聞きたい。

## A 近隣市町・組織体制を

### 見て検討

**町長**

消防団員の報酬は条例により定められているが、本町消防団の報酬が低いとは思われない。報酬審査委員会での検討はしていないが、今後も近隣市町の状況や組織体制の動向をみながら考えていく。



入退団式で決意を新たに

# 施策を問う

## 一般質問



みつ い 三井 たけし 猛 議員

### Q 下水道使用料の 賦課徴収は

**三井** 町税や公共料金収入は、町財政の根幹をなしている。町民の公平な負担を考えると、滞納は放置できない。下水道使用料は井戸水・自家水道使用の世帯もあるが、多くは上水道使用料に比べて下水道使用料金が賦課され、ほとんどの市町村で上下水道使用料金が一括徴収されている。本町では、上水道使用料は2カ月分が甲府市上下水道局からの翌月請求、下水道使用料はその後1カ月遅れ、2カ月後の請求で非常に分かりにくく、苦情や滞納の一因ともなっている。

甲府市上下水道局に、一括徴収を委託することのメリットは大きいですが、協議進捗状況と今後の見通しは。

### A 上・下水道料金を 一括徴収の方向

**町長** 下水道使用料金は定期的に個別滞納整理を行っているが、根本的な解決に至らず、歯止めのかからない状況だ。甲斐市・中央市とともに甲府市長に「上下水道使用料一括徴収」の検討協議を進めてほしいとの申し入れを行い、「一括徴収業務を受託する方向で検討する」との説明があり、開始時期は早くとも23年度以降との回答があった。

「2市1町下水道使用料徴収事務に関する調査研究会」の第1回会議も開催され、具体的な事務協議が進められることになったので、滞納の削減、上水・下水道使用者に対し、利便性の確保やサービス向上につながるものと期待している。



役場入口で下水道のPR

## Q 保育園給食の 自園調理継続を

**深澤** 保育園給食の外部搬入が認められると、一気に市場化される危険性があり、一人ひとりの食事情の配慮も困難で、保護者との連携も難しくなる。保育に義務を負う町として、保育園が外部搬入に走らないよう適切な指導が必要だ。

## A 食育は重要 自園調理を要請する

**町長** 公立・私立保育所の3歳児以上の給食は、特区指定なしで、4月から外部搬入できるようになったが、乳幼児期から食育の重要性が増しており、町は自園調理を継続していくよう、要請していく。



自分たちでつくったヤキイモ



ふかさわ へいすけ  
深澤 平助 議員

## Q 高齢化社会の 方針と対策は

**深澤** 本町の高齢化率は県内で一番低いが、10年以内には比率20%を超す高齢化社会になる。特に疾病とともに増える要介護者に対する対策が急務で、この分野の職員配置と町独自の福祉施設を持つことが必要だ。保険料の軽減策、75歳以上の医療費無料化など、町の考えを聞きたい。

## A 総体的な 福祉施策を考える

**町長** 特養施設建設は、補助金が廃止され負担が多く新設が期待できない。町内には「認知症対応型共同生活介護施設」「小規模多機能型居宅介護施設」が開所され、サービスが充実されているが、待機者の実態や高齢者、家族のニーズも聞き検討していきたい。保険料軽減、医療費無料化は福祉サービスを検証し、総体的に福祉施策を考えていきたい。



たなか ひろよし  
田中 博愛 議員



整備がすすむ区画地内

## Q コミュニティバス

### 運行の考えは

**田中**

本町は甲府盆地の中心的立地に恵まれ、大規模商業施設、外食産業などが著しく増加している。大型ショッピングセンター（イオンモール）も建設中で、区画整理区域の整備で一般住宅・商業施設も集積され、町のイメージは都市化した新たな顔となる。

議会と山梨学院大学との勉強会や井戸端会議でも、役場や目的地に行く案内図や看板がなく、非常に分かりにくいと指摘されている。庁舎を起点に、イトーヨーカドー、JR国母・常永駅、イオンモールやJA直売所など、高齢者福祉にも取り組める昭和町活性化コミュニティバスを、本町の顔として運行する考えはないか聞きたい。

### A 効果を検証し

#### 検討する

**町長**

昭和町は総面積9・15キロ平方メートルの狭い範囲に、店舗・企業・医療機関や施設等の社会的環境がバランスよく整備され、町内の主要幹線道路を路線バスが運行し、JR身延線の駅が2駅あるなど、公共交通機関の利便性が高い町といえる。

現在、大型ショッピングセンターや農産物直売所等の拠点施設整備にあたり、既存の路線バスを乗り入れできるよう山梨交通と協議中で、公共交通の利便性は良くなると思われる。今後は路線バスやJR身延線の利用状況、町内各施設の集客状況を調査し、コミュニティバスの効果を検証していく。

# Q 公共交通の整備充実は

**塚原**

第5次総合計画で利便性の高い道路・交通体系の確立として、幹線道路の整備や公共交通機関の充実などを掲げているが、22年度が最終年度であり、この前期基本計画の状況はどうなっているのか伺う。

ショッピングモールも来春にはオープンするが、JR東海との協議や中央市との調整のほか、駅周辺の空き地と駐車場の買い上げなど、課題が多くある。計画的に土地を買い上げる等、第5次総合計画の前期基本計画の最終年でもあり、私も一般質問を1年半前に行っているが、その後の動向と今後の方針について、町長の考えを聞きたい。



整備を待つ常永駅



塚原 将司 議員

# A コンパクトシティの

## 実現に向け努力

**町長**

都市計画道路「西条・昭和インター線」の未整備区間は、21年度から事業に着手、町道30号線のアルプス道路の接続は甲斐市と協議を進め、22年度予算に調査費を計上、常永土地区画整理事業に伴う幹線道路は、本年12月末の完成を目指している。生活道路の充実では、道路改良や維持補修を推進、利便性の向上や歩道設置など、安全対策に努めている。

井戸端会議等で「昭和町の中心が見えない」との意見をいただいたが、国母・常永駅は甲府市・中央市との境に位置し、「駅を中心に回る」というまちづくりは、本町には適していないと考えている。しかし、常永駅周辺の総合的な整備の必要性は十分に理解しており、今後具体化していきたい。公共交通機関の充実にはJR東海との協議もあり、今後も関係機関と協議を進め、コンパクトシティの実現に向け、公共交通機関や駅等の活用策を検討していく。

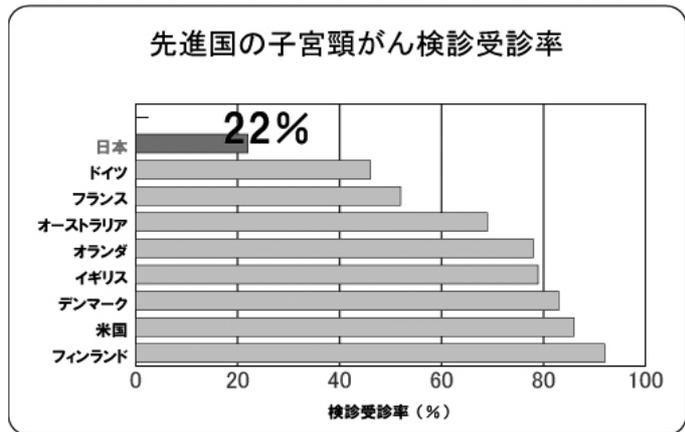
# Q がん対策強化を

**河田** 子宮頸がんはがんの中でも唯一、予防できるがんといわれ、先進国では広く使われている。しかし、接種費用が高く、3回の接種で4万5千円ほどかかり、公費助成を進めることが必要だ。町としての助成を望む。教育現場で子宮頸がんに対する「親子健康教育（仮称）」の推進を。

# A 関係機関に働きかける

**町長** 感染者は20〜30歳代と若年化が進んでおり、ワクチン接種は発生率を減らす上でも大切だ。機会あるごとに意見を聞き、関係機関に働きかけていく。

**教育長** 児童生徒の健康問題は、あらゆる機会をとらえ周知徹底する必要がある。学校関係者の意見を聞き、今後の検討課題とする。



かわた 河田あけみ 議員

# Q 国民健康保険税を問う

**河田** 本町の保険税の税率区分は、所得割・資産割・均等割・平等割の4賦課方式で徴収しているが、資産割の負担が大きいとの声がある。資産割のない自治体もあり、それぞれの方式を比較し町民に分かりやすい説明をすべきではないか。

# A 保険の仕組み等を広報する

**町長** 資産割は医療給付費分が23%、後期高齢者支援金分が9%、介護納付分が5・7%の37・7%となっている。町では一般会計からの繰入を抑え、事業運営するため資産割を賦課しており、財源確保に努めているが、保険制度が分かりにくいため、広報等を活用し、保険の仕組み等をお知らせしていく。

# Q 自主防災組織での 要援護者対応は

**保坂**

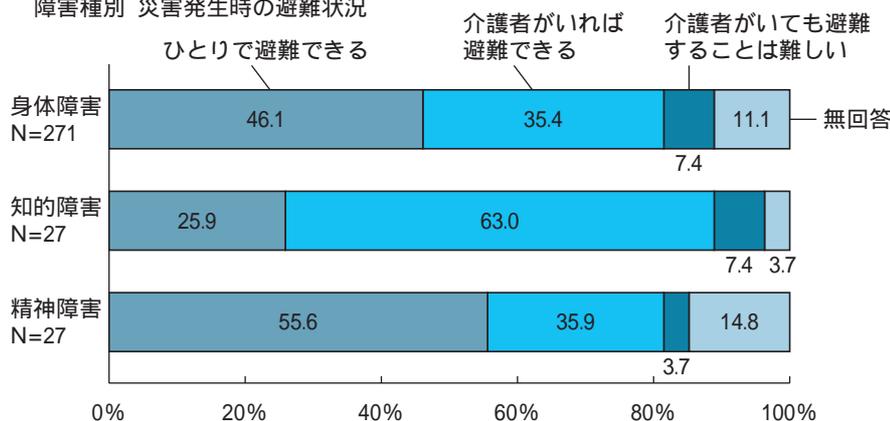
昭和町は全世帯に自主防災会  
活動を支援するため、自主防  
災組織活動の手引きを作成し、3月に  
各区へ配布する予定と報道された。要  
援護者の避難のため、障害に応じた対  
応が必要だが、介護担当者を誰がどの  
ように定めておくのか。

昨年度の福祉課の報告では、少なく  
ても93人の要援護者がいることになる。  
この方々の避難介護の担当者も、自主  
防災組織に組み込まれているのか。避  
難場所も障害に応じた対応が必要であ  
るが、各区に任せるのか。また、外国  
人の要介護者も福祉防災マニュアルに  
記載されていないが、対応の仕方も区  
に任せるのか、町の考えを問う。

## 災害時の避難状況

災害時の避難状況を見ると、「ひとりで避難できる」という割合が半数を  
超えるのは精神障害者のみで、身体障害者と知的障害者では半数を割って  
います。特に知的障害者では25.9%を低い割合で、「介護者がいれば避難できる」  
割合が他の障害者に比べて高く、6割（63.0%）となっています。

障害種別 災害発生時の避難状況



ほ さ か て る こ  
保坂 明子 議員

# A 心身の健康管理に 特段の配慮

**町長**

災害に強いまちづくりを推進するた  
め、地域防災計画の見直しを行い、  
自主防災組織の強化、避難所マニュアルの整  
備等を防災会議で改正した。災害時の要援護  
者登録支援カードの登録を福祉課で進め、現  
在636人の登録を受けており、今後も一層  
の整備を進めていきたい。また、自主防災組  
織活動の手引きも作成する。

在宅高齢者や障害者の避難・救援は、登録  
支援カードの整備を進め、自主防災会にも災  
害時の要援護者支援の取り組みもお願いして  
いる。町は避難所を中心に、被災者の健康維  
持に必要な活動を行い、災害要援護者の心身  
の健康管理には、特段の配慮を行うことにな  
っており、自主防災会の協力で計画的に実施  
していく考えだ。外国人の対応は、英語・中  
国語・韓国語・ポルトガル語の4カ国の、本  
町独自の防災マップを作成し、転入時に配布  
している。



ふくしま まさあき  
福島 正明 議員



河西区の防災訓練

## Q 災害時の

## 避難集合場所

## 確保を

## A 災害に強い

## まちづくりを目指す

**福島**

東海地震は30年以内に87%の確率で発生し、マグニチュードは8・0といわれている。30年以内は、この「以内」が薄れ、30年先と思われるが、災害発生時に近隣や各地区単位での一次対策・二次対策も、現状では十分な状況とはいえない。

東海地震は余震が長く続くとのことで、防災公園のほか第1段階での一時的な避難集合場所を、緊急時に素早く避難できる身近な場所として、地区ごとに数箇所確保すべきだ。

安心・安全なまちづくりのため、被害の軽減や防止策として、避難集合場所用地の確保や、平常時の地域の子どもの遊び場や催しの場を利用したらどうか、町の考えを聞きたい。

**町長**

1月12日発生のカリブ海のハイチ地震は、最悪の自然災害で30万人もの犠牲者が発生し、最近では南米チリの巨大地震による大津波警報が、17年ぶりに発令され、自然災害による恐ろしさを知らされた。

町の備えはもちろん、家庭や地域、職場での備えも実践することが、災害に強いまちづくりにつながる。各地区の一時避難集合地は町内27カ所、避難地は西条小学校校庭を含め7カ所、広域避難地として押原公園、避難所として各学校の体育館5カ所が指定されている。

町が一時避難集合場所の取得や借地までして確保する考えはないが、各地域の自主防災会の支援には、積極的に取り組んでいきたい。また、子どもたちの遊び場や広場は、地域の要望があれば協議していく。

# 住民と議員の対話集会

# 井戸端会議



町議会の議会改革の一環として、また町議会の役割として、議員が常に住民との対話に努め、住民の悩みと声を聞き、議論を重ね、調査・研究を進めていくことで、昭和町の住民福祉の向上と地域社会の活力ある発展を目指すことが必要です。

昭和町議会は区長会と協働し、全12地区で井戸端会議を計画しました。

21年度最後の1月から2月に開催された3地区住民の様子をお伝えします。

## 平成22年度の開催予定

実施時期	総務常任委員会	教育厚生常任委員会	産業土木常任委員会
4～5月	(河東中島)	(飯 喰)	(清水新居)
7～8月	(河 西)	(西条一区)	(押 越)
10～11月	(西条二区)	(紙漉阿原)	(上河東)
1～2月	(築地新居)	(上河東二区)	(西条新田)

詳細は各地区で回覧されますので、ぜひご参加ください。

# 第10回井戸端会議（築地新居区）



下水道工事を  
早く進めてほしい

おもな

意見・要望

と

議会の対応

1月17日

築地新居  
第二公会堂

出席者 築地新居区民 28人  
参加議員 7人  
教育厚生常任委員会 保坂明子委員長

Q ゴミ収集所が古くさびている、ペンキなど塗って欲しい。ゴミ収集車の取りこぼしに配慮して欲しい。

A 各地域の収集所を点検し、区の中で検討。収集車は町当局に要望する。

Q 総合会館の温泉が閉まるのが早い。温泉が出ているのだからもっと活用したらどうか。

A 65歳以上の入湯料無料制度もあり、お昼の時間帯の使用を多く見込んで運営。当局側に改善を求めている。

Q 町ホームページに「各地区のページ」があるが、なにも管理されていない。各地区に更新を任せ充実してほしい。

A 企画財政課に申し出ればホームページに載せるシステムになっている。区長会で再度検討し、活用を促すべき。

Q 築地新居区の下水道は場所により工事完了しているが、手つかずのところもある。なるべく早く工事を進めてほしい。

A 早期実現を当局に要望したいが、国の予算補助で左右される部分も大きい。そのへんも考慮してほしい。

Q 工業団地の境の並木道は、ほかの道と違い剪定が一度もされていない。楓の実が畑に入ったりする。

A 釜無工業会の緊急依頼で12月補正を行い、剪定する予定。幹や枝が送電線等に接触する状況もあるので緊急に対応してくれると思う。

Q 常永川で葦が生えているところがある。どうにかならないか。

A 現在は処理されきれいになっている。葦は水の浄化を助け、むやみに刈れない話もあり、処理の時期は難しい。



常永川をきれいに

# 第11回井戸端会議（西条新田区）

昭和町町民憲章



西条新田は  
子どもが多いのに  
公園が少ない

1月28日  
西条新田区公会堂

出席者 西条新田区民38人  
参加議員6人  
総務常任委員会 福島正明委員長

おもな  
意見・要望  
と  
議会の対応

- Q 消防団の新人団員がなかなか見つからない。個人情報保護で難しいが、地域の男性の把握もできなく勧誘できない。入団促進の制度を作れないか。
- A どの地域でも苦慮。団員の優遇措置も基準が難しい。会社に理解を求め、町の封筒で宣伝するなど会社への配慮を行っている。
- Q いまだに30号線がアルプス通りにつながっていない。
- A 懸案になったままで西条新田の方々には申し訳ない。最近、甲斐市とも協議したが、財源は追加しないということだ。町当局と協議していきたい。
- Q 30号線の通学路が危険なので横断歩道の設置をお願いしたい。交通量が多いので安全を確保してほしい。
- A 企画財政課が公安委員会に希望し、認められたらミラー設置が可能になる。行政にも確認したい。
- Q 西条新田の市街化の見通しと下水道の見通しは。
- A 市街化は見直しがあるときに早期実現に向け要望したい。



押原公園

- 下水道は西条新田（調整区域）は平成29年からの予定です。
- Q 西条新田は子どもが多いのに公園が少ない。安全に遊べる場所の確保をしてほしい。
- A 大きな公園は、釜無・押原・国母工業団地の3つだが、西条新田には公園が少ない。要望も出されており、整備の参考にしていきたい。
- Q 町の行事でバス運行される時、西条新田は深沢温泉がバス発着所になっているが、小さいバスを運行し、発着場所も増やしてほしい。
- A 当局に要望を出します。

# 第12回井戸端会議（上河東二区）



## 町営団地の 使用環境をより良く！

おもな

意見・要望

と

議会の対応

2月19日

上河東二区公会堂

出席者 上河東二区民35人  
参加議員7人  
産業土木常任委員会 野中敏美委員長

Q 町営団地の周りにゴミが多い。駐輪場でいたずらも多く、出入口を解放した方がいい。ペットを飼っていたりする人もいる。

A 区の中で団地の4人の組長さんと話しながら規則に沿って対策したい。担当課や建設委員会でも話をしていきたい。

Q 粗大ゴミは町外からも捨てにくるなど対策が難しい。コンテナの中に入れてもらうシステムが欲しい。

A ゴミ問題はモラルが重要。モラル向上もゴミ削減につながる。行政に頼るには限界があり、自主的な地区活動も大事だ。

Q 要望を何年も出しているが、上河東二区を横断する7組までの道路が狭く、非常時に緊急車も通れない。整備をお願いしたい。

A 産業土木常任委員で現場を確認し、担当課と協議する。

Q 町発注の工事で、町の業者がほとんどないように思う。町の業者に頼むことで町も潤うのでなるべく使ってほしい。

A 町内業者の優先はなるべく行っている。工

事内容によっては仕方がない場合もある。町の指名業者でないと入札に参加できないので、登録をお願いしたい。

Q 以前、一般質問で塚原議員が常永駅周辺の整備を質問したが、早期実現をしてほしい。その後どのような進展が経過を知りたい。

A 町長答弁で、区画整理事業と絡め整備することのだが、3月議会でさらに追及したい。（P14参照）駅の駐輪場にも追求し整備を求めたい。



議員の現地視察

# 追跡



## あの 一般質問は どうなった？

議会からの要望や議員の質問に、当局がその後どのように対応し、  
どうなっているのかを追跡・検証してみました。

### 校庭の芝生化を進めてほしい

樋口敏夫議員の一般質問(平成21年9月議会)  
教育厚生常任委員会の要望(平成21年12月25日)

**問** 校庭の芝生化は砂ほこりや怪我の  
防止にも有効で、地表温度を下げ、  
環境教育、緑化推進にもつながる。実践  
例も調査して町内3校の校庭芝生化を進  
めてほしい。

**答** 教育長 メリット・デメリットを  
研究・検討したい。



押原小学校の部分的芝生

### その後の 経過

#### 芝生化の利点

緑豊かで安全、快適感の中で活発な外  
遊びの意欲が高まり、素足効果で健康へ  
の効果、体力向上も期待できる

環境的にも芝生の断熱効果で気温の急  
激な上昇を抑え、砂や土の飛散も防止で  
きる

精神面への良い効果も期待できる



教育厚生常任委員会

#### 問題点

イネ科植物アレルギー児童の存在  
学校体育の内容には差があり、芝生と  
土の比較が必要

ほこり抑えの塩化カルシウム散布は、  
芝の成育に適さないのでは

芝生の管理作業の増加

全面芝生化は体育や休み時間の場所の  
確保が問題

芝生の朝露や凍結で滑りやすいとの事  
例報告もある

### 結 論

芝生化の効果は理解するが懸念材料  
もあり、押原小学校校庭周りの部分的  
芝生化により様子を見たい。



# 議員活動報告

## 《教育厚生常任委員会》

### ケアマナージャーとの意見交換

1月18日、いきいき健康課長と同課のケアマナージャーと意見交換会を開きました。

今後、高齢者はますます増えるなかで、きめ細かな関わりや相談件数は増え続けています。そこで昭和町地域包括支援センターの活動について報告を受けました。

また、社会福祉協議会より、昭和町ボランティア人材バンクの状況報告を受けました。町内の高齢者とともに、各地区で知恵を出し合い行動する中で、自助・共助・公助について話し合いました。



## 《産業土木常任委員会》

### 押原公園と常永土地地区画整理事業の現状を視察



2月18日、3月議会を前に工事の現場に行き、課題を探りました。押原公園は完成を目前に、住民が利用しやすい施設になっているかどうかを確認、常永土地地区画整理事業は26年3月までにすべての工事を完成し、28年3月末までに事業を終える予定の組合事業ですが、区画整理地内では大型商業施設建設の現状を視察しました。

# 見聞広がる視察受入

12月議会定例会終了後も、多くの市町村から昭和町議会へ視察に訪れました。

平成22年

- 1月22日 山梨県増穂町議会運営委員会
- 2月 9日 長野県駒ヶ根市議会報編集委員会
- 2月15日 長野県松川町議会あり方研究会
- 4月26日 静岡県清水町議会広報編集委員会



増穂町議会運営委員会の皆さん

井戸端会議・山梨学院大学との提携を中心とした議会の改革の視察と、議会広報の視察の申込みがありました。議会改革は、昭和町議会の取り組みをパワーポイントで紹介、議員は、従来の活動にとどまることなく自己の資質の向上を図りながら、議会改革を推し進め、住みよい町をつくるため、互いに意見を交わしました。

どの議会からも、逆に学ばせていただく点もあり、これから切磋琢磨していかねばならないと痛感しました。議会広報の視察では、21年度の全国コンクールで準優勝したこともあり、これまでの経験や苦労した点を紹介しながら、互いの議会広報の向上のため、意見交換を行いました。

青空と緑と産業のまち「昭和町」に住む  
皆様にご意見・ご感想を伺いました。



古きを訪ねて



河西区

渡辺

清さん

町制施行は昭和46年4月1日。私はこの年に町議会議員になり、人口は5、800人世帯数1、314戸、一般会計予算4億円と大規模の小さい自治体でした。

昭和町になって上河東南部一帯の開発、一戸建て分譲住宅、2階建て町営住宅2棟、県営5階建アパート4棟、山梨医大宿舎3棟、民間貸店舗も出現し、急激に都市化が進みました。

さらに国母・釜無両工業団地の用地買収で汗をかき、同じ時期に町の真ん中を貫く中央自動車道の杭打ち、昭和バイパスの用地買収が始まった時代でした。

このころは予算も少なく、執行部と意見が対立し、委員会をボイコットした時もあり、今では大問題になるのではと、当時を振り返り胸をなで下ろしています。

議会のある度に興味深く議会広報誌を読んでいます。人口17、000人、一般会計予算も69億円強と桁違いの財政規模に目を見張り、行く行くは単独市制実現の夢を膨らます老輩です。

こんな発展した町の行政にも携わる事ができ、素晴らしい昭和町を見る事ができた最高の人生です。

清水新居の今昔



清水新居区

石原

千鶴さん

山梨県で一番小さくても豊かな町。高齢化率が15%、県内でトップクラスの若々しいまち・昭和町。

こんな昭和町に生まれ育って78年。思えば私の住む清水新居は、かつては清水山家といわれ、不便の代名詞のようにいわれられました。

しかし、近年の発展は目覚ましいものがあります。昭和バイパスと南西通りの道路、児童センター「ゆめてらす」、冷暖房が完備し、選挙時の投票所にもなる公民館、大型スーパーや西条小学校も近くにあり、なんの不自由もありません。高齢者にありがたいのは、週2回、町のバスが無料で温泉へ送迎してくれることです。

60年以上前に清水新居は昭和村から離れ、甲府市に入ることになり、村の役職を総辞退、小中学校、農協も甲府市に入った経緯があります。しかし、今では昭和町から分かれてと考えている人は少ないでしょう。西条小学校へ通う子どもたちが増えているのが、その証拠です。

青空と緑と産業の町、小さくても豊かな町・昭和町の、ますますの発展を願ってやみません。



入園・入学・就職と、新たな旅立ちの季節となりました。1年の中でも、この季節は特別な意味を持つ人も多いと思

いますが、昭和町議会でも今まで積み重ねてきた議会改革が、徐々に花開こうとしていると感じています。

ここ数年、年4回定例会の都度発行される議会だよりも、多くの町民の皆さんから「議会だよりが変わったね」とか、「見やすくなったね」などの声をあちらこちらで聞きます。

全国各地の議会から昭和町議会広報の視察研修に訪れ、お互いが勉強し合える機会もできました。これも議会改革を進めていく上で、目に見える顕著な改革の一環ではないのか、と感ずる気がいたします。

議会だよりを通じ、編集委員が担当したページに誠意を持ち、町民の皆さんに愛される広報づくりに努力をしております。

(河住 保茂・記)

- 広報編集委員会
- 委員長 河田あけみ
- 副委員長 河住 保茂
- 委員 萩原 馨 保坂 明子
- 野中 敏美 塩澤 浩